

# 令和5年度 学力向上を図るための全体計画

鷹南学園三鷹市立中原小学校

**関係法規・市教委教育目標**

日本国憲法 教育基本法  
学校教育法  
学習指導要領  
都・市教育目標

**学園教育目標**

- ・自ら心身の健康を保ち、進んで行動する人
- ・自ら課題を見つけ学び考え解決する人
- ・自分や相手を大切にし優しさを広げる人
- ・地域の一員としての自覚をもち国際社会に目を向ける人

**児童の実態、期待される児童像**

- 学習内容の定着度や、知識・技能を活用する問題解決能力に個人差が見られる。
- 自ら進んで表現し思考を深めようとする子、友達との関わりから思考を広げられる子になるようにしたい。

## 学力向上に関わる学校経営方針

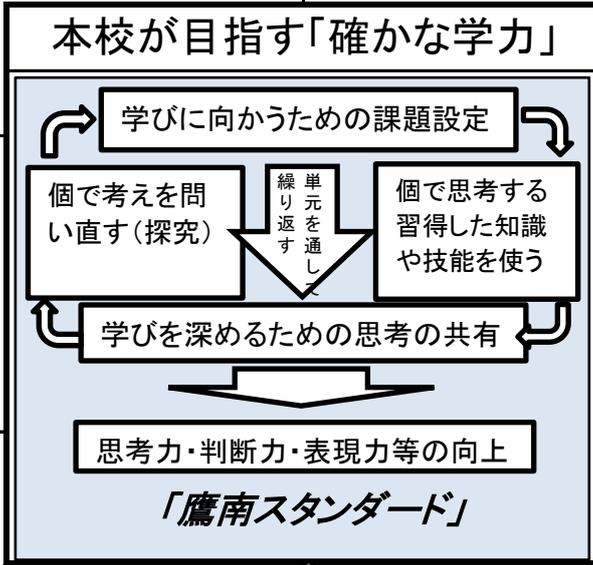
- ・小・中一貫教育、小・小連携の視点からの「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業改善
- ・「見方・考え方」を育て学習を振り返ることにより内容の定着と課題を見出す力の育成
- ・安心・安全な学級経営を基盤とした学習への意欲の保障
- ・学校・家庭・地域と協働し、学校を核とした学びの共同体の創造
- ・校内通級教室との連携を図り、児童の実態や指導の方向性を共有する支援体制の充実

**教科指導の重点**

- ・「鷹南版小・中一貫カリキュラム」を活用し「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を行い生きる力を育む。
- ・習熟度別少人数指導、相互乗り入れ(小・小、小・中)等を活用し系統性のある児童を充実させる。
- ・改訂版「鷹南スタンダード」を徹底し、各教科「見方・考え方」を育て内容の定着と自ら学ぶ意欲を伸ばす。

**総合的な学習の時間で身に付ける「学力」の重点**

- ・キャリアアントレプレナーシップ教育においては、探求のサイクルを充実させ、「鷹南版小・中一貫カリキュラム」を活用しすんで社会にかかわろうとする態度を育成する。
- ・学習したことを自己の生活や生き方に生かす力を育てる。
- ・調べる、まとめる、発表する活動から、友達との関わりを大切にしながら進んで表現する力を育てる。



**道徳教育の指導の重点**

- ・家庭・地域と連携し学園全体で心をこめたあいさつができる子の育成を推進するとともに、道徳教育の9年間の年間指導計画の作成を進め、発展的・系統的な指導を行う。また、学習活動を具体的に、多面的・多角的に考え、判断する能力、道徳的心情、道徳的行為を行うための意欲や態度を育てていく。
- ・自他の生命、自然環境を大切に、よりよく生きる力を育てるために、地域等の人財を活用し、指導の充実を図る。

**特別活動の指導の重点**

- ・学園として児童会・生徒会での取り組みを進め、小・中交流活動を通し集団の一員として協力し、よりよい生活を築こうとする自主的・実践的な態度を育てる。
- ・児童の発達に応じた話し合い活動を計画的に行い、互いの立場を尊重する望ましい人間関係を育てる。
- ・異年齢集団によるたてわり班活動を通し、各学年に相応しい主体性や指導力、責任感を育てる。

**進路指導の重点**

- ・キャリア・アントレプレナーシップ教育の学習活動を、「かかわる」「生み出す」「高め合う」という3段階に設定し、様々な地域人財を活用しながら進める。昨年度に引き続き、コミュニケーション能力の育成に重点を置く。
- ・児童会が中心となり友達のを認め合う活動を全校で取り組むことによって、自己肯定感を高められるようにする。

**生活指導の重点**

- ・鷹南学園の9年間は「みそあじ言(身だしなみ、掃除、あいさつ、時間を守る、言葉遣い)」を中心に確かな人間力と学力の育成を図る。
- ・地域とも連携しながら学期1回のあいさつ運動を充実させ、地域に見守られ、育てられる学園を目指す。
- ・特別支援が必要な児童に対して組織的に対応し児童理解を深める。
- ・いじめの未然防止と早期発見に努める。

## 本校の授業改善に向けた視点

| 指導内容・指導方法の工夫  | 教育課程編成上の工夫   | 校内研修・研究の工夫   | 評価活動の工夫   | 家庭や地域社会との連携の工夫  |
|---|--|--|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・学び方や教員の指導法、家庭教育の目安という3つの要素を盛り込んだ「鷹南スタンダード」を児童・教員・保護者に周知し、日常的・継続的に取り組むことで基礎学力の向上を図る。</li> <li>・市の学力調査の結果分析を行い、本校児童の課題を明らかにし、効率的・重点的・組織的に指導方法改善に取り組む。</li> <li>・東京ベシーックドリルや、補習学習「みたく地域未来塾」を活用して、基礎学力を推進する。</li> <li>・中・高学年での算数習熟度別授業や、高学年の教科担任制で基本的・発展的学力の徹底を図る。</li> <li>・ノート指導の仕方を系統化し、自ら学ぼうとする態度や意欲を引き出す。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・学園としての重点を算数・数学の指津に置き、相互乗り入れ授業(小・中、小・小)を実施し、児童の学ぶ意欲と学習能力の向上を図る。</li> <li>・小・中の円滑な接続をねらい、部活動体験(6年、プレ中学校講座(5年)、きょうだい学年交流(全学年)、学園集いを学園の取り組みとして位置づけている。</li> <li>・中高学年を中心に教科担任制を実施し、教員の専門性を生かした授業を推進する。</li> <li>・「長縄大会」を全校行事に位置づけ、体力向上を図る。</li> <li>・週1回、朝読書の時間をとり年間500分以上の読書時間を確保するとともに、年2回の読書週間を実施して読書活動を充実させている。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「三鷹市小・中一貫カリキュラム」を活用し、小・中9年間のカリキュラムの中で系統的・効果的な学びを洗い出し、小から中への円滑な接続を目指して、教科ごとの専門研究を小・中教員が合同で行う。</li> <li>・「児童生徒の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた日常的な研究を目的として」を主題とし、各教科の見方・考え方を明確にし、振り返りの重視や学習のサイクルを高めるための工夫を生かして、自ら課題を明らかにする態度を育てていく。</li> <li>・毎学期、各自1回は、授業公開をし、日常的な研修が行えるようにする。</li> <li>・年間10回以上のOJT研修を行い特にタブレットの活用やオンライン授業に関する内容について意見交換し技術向上に取り組む。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「鷹南版小・中一貫カリキュラム」を活用し、小・中9年間を見通した評価観の共通理解を図り、改訂版「鷹南スタンダード」の達成度や課題が伝わるように小・小の通知表の学習や、行動の評価項目を統一する。</li> <li>・評価規準について見直し、より客観的な評価ができるように評価資料や方法について共通理解を図る。</li> <li>・児童への「学校生活アンケート」は「鷹南スタンダード」の視点も盛り込み、年2回実施し、児童の学習や生活の活動状況をつかみ、指導に生かすとともに、学園・学校評価に生かす。</li> <li>・4年生以上対象として「授業者評価」を行い授業改善に結び付ける。</li> <li>・2～6年対象の「算数少人数授業評価」、当該学年対象の「相互乗り入れ授業評価」を実施する。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の人財・教材をコミュニティスクール委員会を通して積極的に活用し、児童の学習や活動に効果的に生かしていく。</li> <li>・スクールサポート部を介して授業や校外学習の学習支援協力者を募り、児童の安全管理をはじめ、積極的に活用する。</li> <li>・学校HP、保護者会、学園・学校・学年便りなどを通じ、学園あいさつ運動等をはじめとする、本学園・本校の教育活動について知らせ理解を求めるとともに、家庭への協力を働きかけ、生活習慣や学習習慣を育成していく。</li> <li>・保護者や外部のボランティア団体を活用した「みたく地域未来塾」や読み聞かせを引き続き充実させ、すすんで学習する習慣をつけていく。</li> </ul> |